

令和4年度

事業計画

社会福祉法人 幸生福祉会

# 理 念

人と人との出会い、心の交流をとおして生きがいを見つけ、活力ある日々をその人らしい生き方で、安心して共に暮らせる施設を目指します。

## 基 本 方 針

社会情勢が大きく変化していく中、利用者が心身ともに安心して心穏やかで健やかな日常生活が送れる環境を第一に考え、時代の変化に迅速で柔軟に対応した新たな楽しみや生きがいを持って生活が送れる楽園として、希望と笑顔が絶えない空間を創作する。

## 事 業 計 画

### (1) 経営基盤

介護サービスの提供を主体とした地域における活動拠点として、社会貢献を意識した中長期的な計画も視野に入れ、安定した財源を確保し経営戦略を図る。

### (2) 事業運営

変化する社会のニーズを見つめ、時代の流れに適応した多面的な事業運営を主体に、利用者の視点を取り入れた質の高いサービス提供と充実した環境設備を整え、人々がお互いに支え合う姿に生きがいを感じられる福祉現場を樹立する。

### (3) 設備管理

経年劣化が進み更新が必要な部分については、計画的に順次設備を更新できるように定期的な点検を実施し、器具等の故障や修繕箇所の発生時については、緊急時でも敏速に対応できる業者と保守契約を交わして管理する。

### (4) 人材育成

当施設での離職率は低く平均勤続年数は約10.4年と定着しているが、人手不足という問題もあり新卒採用が少ない状況の中、次世代の職員を育成する勉強会や施設内研修を定期的実施し、介護現場で臨機応変に対応できる自己啓発を促し、各種会議や委員会を通じて個々のスキルアップを図る能力開発に取り組む。

### (5) 地域活動

少子高齢化が進み地域の社会資源等も徐々に変化している中、地域における高齢者のニーズに不足がちな社会資源等を考え、いつまでも住み慣れた場所で安心して暮らせる活力のある施設を拠点として未来の高齢者社会に向けた活動をする。

## 特別養護老人ホーム 九十九園（介護老人福祉施設）

### ショートステイ九十九園（短期入所生活介護）

- 1 利用定員 特別養護老人ホーム 50 名  
ショートステイ 10 名
- 2 職員定数 40 名 施設長、生活相談員、介護職員、看護職員、  
介護支援専門員、管理栄養士、医師(非常勤)
- 3 事業運営
  - (1) 利用者に必要な日常生活の支援及び健康管理・機能訓練等を行うことにより、利用者が有する能力に応じて自立した日常生活が営めるよう、介護職員や看護師、管理栄養士が連携を図り、利用者主体を考えた支援に努める。
  - (2) ショートステイを利用する事によって在宅での生活が続けられるように、利用者の生活習慣を大切にし、心身共に快適な生活の場となるように努める。
- 4 基本計画
  - (1) 利用者にとって、気持ち良く自立した日常生活が送れる雰囲気や環境に整備し、安心、安全、安楽な生活を提供する。
  - (2) 日々のレクリエーションを充実させ、状況に応じて出来る活動を継続して行う事で、施設生活の中での楽しみに繋げていく。
- 5 基本姿勢
  - (1) 利用者の接遇を大切にし、利用者にとって安心、安全、安楽な生活を提供し、利用者主体の考え方を基本とした支援をする。
  - (2) 利用者と個別で関われる時間を大切に、各職員職種を問わず職員が関わりを持てる機会を設けて、笑顔で楽しく過ごせる日常の余暇活動を提供する。
- 6 資質向上
  - ① 介護リーダーを中心に多職種間でのコミュニケーションを図り、リーダーミーティングやケアカンファレンス、各種会議での決定事項はすぐに伝達して情報共有を図り、迅速かつ柔軟な対応を踏まえた上で、決定事項を継続して実施する。
  - ② 介護職員として適切な態度で対応が行えるよう、介護リーダーを中心として日々の技術面や指導だけではなく、施設内研修の参加、勉強会等での学びを通じて振り返る機会を定期的につくり、考え方や技術を含め知識の向上を図る。
  - ③ 入所以前の嗜好や生活習慣、既往歴なども含めた情報共有を行い、多職種間で情報交換や共有を行い、嘱託医との連携を深めて食事摂取状況を多方面から観察し、食事内容の見直しを適宜実施し改善に努める。
  - ④ レクリエーション内容等の検討を行う機会を多職種間で持ち、職員の意識を高めて継続性のある楽しみの時間を提供し、利用者に寄り添った活動をする。

## ケアハウス九十九園（軽費老人ホーム）

- 1 利用定員 30 名
- 2 職員定数 4 名 施設長、生活相談員、介護職員
- 3 事業運営  
高齢者の特性に配慮した住みよい住居を提供し、日常生活に必要な便宜を提供することにより、利用者が安心して明るく自立した生活できるように支援する。
- 4 基本計画  
日々の入居者同士の関係性や、個人の生活パターンを観察し、寂しさやストレスを抱えることなく、楽しみや生きがいをもって生活できる環境を整備する。
- 5 基本姿勢  
入居者の状態変化に伴う相談や助言を行い、状況に応じて介護サービスの提案などを行い、利用者が意欲や自信をもって生活できるように支援する。
- 6 資質向上
  - ① 入居者の状況に応じて、職員が助言を行い精神面の安定を図る。
  - ② 他職種間での連携に努めてトラブルなどを未然に防ぎ、早期発見、早期対応を心掛け、家族の協力を仰ぎ心穏やかな生活が送れるように努める。

## デイサービスセンター 九十九園（通所介護）

- 1 利用定員 50 名
- 2 職員定数 17 名 管理者、生活相談員、介護職員、看護職員
- 3 事業運営  
在宅の虚弱な高齢者に対し、通所により各種の介護サービスを提供することによって、生活の助長、社会的孤立感の解消を図る。
- 4 基本計画  
利用者のニーズに応じて可能なことには出来る限り取り組み、1日を通じてメリハリを持たせた活動を提供し、利用者の楽しみであるレクリエーションの幅を広げてサービスの充実を図り、笑顔で寄り添うデイサービスとして活動する。
- 5 基本姿勢  
利用者の情報共有を実施し、利用者の出来ること(満足感、達成感など)を増やし、パターン化、マンネリ化しない工夫をして、利用者と共に楽しむ時間を増やし、反省や改善を繰り返すことでサービスの充実を図っていく。
- 6 資質向上
  - ① 介護の基礎となる部分の見直しや再確認を繰り返し、日々の指導やデイ研修等を通じて、基本的な介護技術や介護知識を習得し、職員全体の底上げが図れるように取り組み事故防止に繋げる。
  - ② 一人一人が介護の意味を理解し、理由を考える習慣をつけることで職員個々のレベルアップを図り、業務を熟す上でのポイントを把握していく。

## 九十九園 京田辺市居宅介護支援センター（居宅介護支援事業所）

- 1 職員定数 4名 管理者、介護支援専門員
- 2 事業運営  
要介護者の意思を尊重し、介護度や生活環境に応じて介護計画を作成し、介護サービス事業者を紹介したり、サービス提供に関し連絡や調整を行なう。
- 3 基本計画  
関係機関や遠方の家族との連携を密に図り、インフォーマルサービス等をうまく活用し、安心して自宅で生活できるよう援助を行っていく。
- 4 基本姿勢  
変わりゆく介護保険制度への理解を職員間で共有し、制度改正の敏速な対応を行い、利用者や家族が理解できるように援助を行っていく。
- 5 資質向上
  - ① 本人の状態に合わせたサービス調整がスムーズに図れるように、ソーシャルワーカー・医療関係者との連携を密に図り、安心した在宅生活を送れるよう支援を行っていく。
  - ② 集団指導や研修等での知識を職員間で情報を共有し、家族や利用者に対して柔軟に敏速な対応を行う。

## 在宅介護支援センター九十九園（窓口相談事業所）

- 1 職員定数 4名 管理者、介護支援専門員
- 2 事業運営  
京田辺市からの委託を受け、介護認定で自立（非該当）と認定された方や介護認定を申請する程でもない65歳以上の高齢者の相談援助を行う。
- 3 基本計画  
生活スタイルが変わる入所サービスへの移行が増えている中でも、利用者の心身の状況を踏まえた在宅サービスの紹介や相談援助などの支援を行わない自分らしい在宅生活が続けられるような援助に努める。
- 3 基本姿勢  
介護保険制度に対して、利用者や家族の理解が難しい部分について、敏速で丁寧な対応を図り、在宅生活を支える地域福祉サービスの提案を行う。
- 4 資質向上
  - ① 定例会議への出席により、地域包括支援センターとの連携を図り、介護保険申請の手続きや介護保険外の住宅改修等の支援を行う。
  - ② 関係機関との連携や地域資源を活用し、安心して生活できる援助を行う。

## ヘルパーステーション 九十九園（訪問介護）

- 1 職員定数 4名 管理者、サービス提供責任者、訪問介護員
- 2 事業運営  
在宅での生活が維持向上出来るように、利用者の個々に応じたリズムや生活スタイルを合わせたサービスが提供できるように努める。
- 3 基本計画  
利用者が出来る限り、在宅で安心して自立した日常生活が送れるように、日々の状態変化を把握し、職員間での情報の共有を図り適切な支援を行う。
- 4 基本姿勢  
高齢者や日常業務におけるサービスの特性と形態を理解し、利用者の特徴に応じた様々なケースに対応して、専門職としての責任を持って対応をする。
- 5 資質向上
  - ① 勉強会や研修等の学びの場を有効に使い、感染症等についての正しい知識を習得し、職員一人ひとりのスキルアップを図る。
  - ② 日々更新される情報を積極的に収集し共有することで、各自が援助目的や専門性を意識し、臨機応変に対応できる柔軟性を高める。

## 本部

- 1 職員定数 4名 施設長、事務職員
- 2 事業運営  
社会情勢の傾向を見極め、行政改革や介護保険制度改正による規程やマニュアル等の改訂を迅速に対応し、適正な事業運営に努める。
- 3 基本計画  
建物や設備など、経年劣化が見受けられる部分や業務の効率化を図る機器の更新や修繕を定期的を実施し、中長期的な経営の安定を図る。
- 4 基本姿勢  
どんな状況下でも迅速に対応できるよう、日頃から伝達や確認を行い、職員間で常に情報共有をして連携を図り、業務に支障を来たさないよう心掛ける。
- 5 資質向上
  - ① 多くの情報を習得できるように、インターネットの活用や関係機関との連携を図り情報収集に努め、臨機応変に対応できる応用力を身につける。
  - ② 行政の動きや小さな情報でも早く掴めるように視野を広げ、コミュニケーションを充実させることで、日常的な会話の中からも情報が得られるようにする。

令和4年度事業方針

部署	現状と課題	新年度方針	取組
<p>特養</p> <p>ショート</p>	<p>① 職員間のコミュニケーションが少なく、業務での連携もスムーズにいかず情報の共有が不十分で決定事項等の取り組みについても継続性がない。</p> <p>② 声かけや言動に丁寧さが欠けており、それに伴って安全安楽な介護が疎かになってきており、同じような事故を繰り返している。介護技術面においても職員間で意識や技術の差がある。</p> <p>③ 新型コロナ感染の中で、以前のようなレクリエーションの実施が難しくなっており、レクリエーションの企画、提供がマンネリ化している。</p> <p>④ 認知症による失認・失行、介護の重度化により食事介助を要する方が増えている。また、摂食嚥下機能の低下により食分量、水分量の確保が困難な方も増加傾向にある。</p>	<p>① 職種関係なく、スムーズな連携を図る事で、情報の共有が図り、決定事項を継続し実施する事ができる。</p> <p>② 接遇を大切に、利用者にとって安心、安全、安楽な生活を提供する。</p> <p>③ 状況に応じて出来る活動を継続して行う事で、施設生活の中での利用者の楽しみに繋げていく。</p> <p>④ 「その人らしさ」に寄り添いながら、安全面・食べやすさに配慮した食事形態の選出を行い、食分量の確保や低栄養状態の改善を図る。</p>	<p>① 介護リーダーを中心に多職種間でのコミュニケーションを図り、報告、連絡、相談を日常的に実施し、リーダーミーティングやケアカンファレンス、各種会議での決定事項はすぐに伝達、報告行い職員間で共有、実践、実践状況の確認、修正を定期的に実施する。</p> <p>② 介護職員として適切な態度、対応が行えるよう、介護リーダーを中心として日々の指導、技術面だけでなく施設内研修への参加、勉強会等での学びを通じ、考え、振り返る機会を定期的につくり、職員としての技術、知識の獲得、向上を図り、安心、安全、安楽な生活を支援する。</p> <p>③ レクリエーションの実施、内容の検討を行う機会を持ち、継続性のある楽しみの時間が提供できるよう各職種を問わず職員が万遍なくレクリエーションに取り組める環境をつくる事で、職員の意識を高め、利用者を楽しみの時間を還元していく。</p> <p>④ 入所以前の嗜好や生活習慣、既往歴なども含めた情報共有を行い、多職種協働のもと食事内容の見直しを適宜実施していく。</p>
<p>ケア</p>	<p>① 入居者同士の年齢差による性格の不一致や、コロナ禍による不安や制限などでストレスを抱え、精神面での不安定がある。</p> <p>② 高齢化が進む中、ADL低下に対する不安や、甘えなどが出現し、それに伴うQOLの低下が著しい。</p>	<p>① トラブルなどを未然に防ぎ、早期発見、早期対応を心掛け、心穏やかな生活を送れる環境をつくる。</p> <p>② 状態変化に伴う相談や助言を行い、状況に応じて介護サービスの提案など、意欲、自信を持って生活できるように支援する。</p>	<p>① 日々の入居者同士の関係性や、個人の生活も観察し、状況に応じて職員も助言に入るなど、精神面の安定を図る。</p> <p>② 状況に応じて他職種連携に努め、家族の協力を仰ぎながら意欲や自信を持って生活ができるように努める。</p>
<p>デイ</p>	<p>① 業務全体の流れは良くなっているが、満足度調査からもう少し運動したいという希望が多数あった。現状を維持しつつ、気分転換が図れるように満遍なく「身体の活動」「頭の活動」を一日の流れに取り入れるよう工夫する。</p> <p>② この1年介護事故は少なかったが、引き続き、介護技術の基礎を見直し、基本に立ち返って介護についてしっかりと(根拠の)説明できる職員を育成する必要がある。又、苦手意識のある業務にも積極的に取り組み、介護技術の底上げをしていき知識を増やす事で対応時の気持ちにゆとりを持たせ、事故防止にも繋げたい。</p>	<p>① 利用者のニーズに応じて可能なことには取り組み、1日を通じてメリハリを持たせる活動を提供し、利用者の楽しみ作りを増やす。</p> <p>② 介護の基礎の見直しや再確認を繰り返し、基本的な介護技術を習得する。職員全体の介護技術の底上げを図る。</p>	<p>① 利用者の情報共有の実施から利用者の出来る事(満足感、達成感など)を増やしパターン化、マンネリ化しない工夫を昨年度と同様継続とする。少しでも利用者とともに楽しむ時間を増やせるよう時間を有効活用し、反省や改善を繰り返すことでサービスの充実を図っていく。</p> <p>② 介護の基礎知識を日常の中で学べるよう、日々の指導やデイ研修等を通じて介護知識を増やせるよう取り組んでいく。また、一人一人が介護の意味を理解し、理由を考える習慣をつけるとともに、リーダー職員においては、その理由をきちんと説明し、介護福祉士としての視点で適格に指導できるよう、自分の役割を考えながら業務に当たれるよう取り組んでいく。</p>
<p>ヘル</p>	<p>① 課題解決のための対策を考える力が必要。</p> <p>② 業務上の危険予測に基づいた行動力に欠ける。</p>	<p>① 専門的な知識を持ち、臨機応変に対応できる柔軟性を高める。</p> <p>② 高齢者や日常業務におけるサービスの特性と形態を理解する。</p>	<p>① 日々更新される情報を積極的に収集し、各自が援助目的や専門性を意識する。</p> <p>② 利用者の特徴に応じた対応を行う。感染症についての正しい知識の習得。</p>
<p>支援</p>	<p>① 老々介護が増えてきており、利用者・介護者の状態の低下に伴い、介護保険では補えないケースが増えてきた。</p> <p>② 退院時、本人の状態確認が難しくなってきた為、スムーズに退院調整ができないことがある。</p>	<p>① 関係機関・遠方の家族との連携を密に図り、インフォーマルサービス等をうまく活用し、安心して自宅で生活できるよう援助を行っていく。</p> <p>② 病院での状態確認ができないため、定期的な状態確認を実施し、安心して自宅での生活が行えるよう支援を行っていく。</p>	<p>① 関係機関との連携や地域資源を理解し、職員会議にて情報を共有しながら、サービス提供を実施していく。</p> <p>② 本人の状態に合わせたサービス調整がスムーズに図れるように、ソーシャルワーカー・医療関係者との連携を密に図り、安心した在宅生活を送れるよう支援を行っていく。</p>
<p>事務</p>	<p>① 年々増え続けるあらゆる分野の法改正に対して、情報が得られていない。</p> <p>② コロナ禍による人員不足や突発的な業務が重なり、余裕のある業務ができていない。</p>	<p>① 情勢の動きや小さな情報でも早く掘めるよう視野を広げる。</p> <p>② どんな状況下でも、対応に遅れが出ないよう常に情報を共有し連携を図る。</p>	<p>① 多くの情報を習得できるよう、インターネットの活用や関係機関との連携を取り、情報収集に努める。</p> <p>② 迅速に対応できるよう日頃から伝達、確認を行い、業務に支障を来さないよう心掛ける。</p>